

校内研修“おたすけ”シリーズ④

人権教育の 3つの視点



島根県教育庁人権同和教育課

※この動画は、

校内研修“おたすけ”シリーズ①

「進路保障」の理念

校内研修“おたすけ”シリーズ②

「進路保障」の理念に基づく取組の手法

校内研修“おたすけ”シリーズ③

求められるのは人権感覚

のあとに視聴することをお勧めします。

この動画の流れ

- 1 はじめに
- 2 人権教育とは
- 3 人権教育を進める3つの視点
- 4 おわりに

1 はじめに

〈ねらい〉

人権教育を進める上で大切な3つの視点について理解し、明日からの実践につなげる。

2 人権教育とは

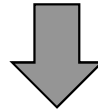
人権教育とは何をするものだと思いますか？

※動画を止め、空欄に書き込んでみましょう。

A large empty rectangular box with a black border, intended for the user to write their answer to the question above.

2 人権教育とは

人権教育 = 「進路保障」を柱とした教育活動
『人権教育指導資料第2集 しまねがめざす人権教育』 p.1



子どもを大切にしている実践を通じて、自他を大切に
にする子どもを育成する活動

※おたすけシリーズ①「『進路保障』の理念」シリーズ②「『進路保障』の理念に基づく取組の手法」もご覧ください。

3 人権教育を進める 3つの視点

人権教育 = 子どもを大切にする実践を通じて、自他を大切にする子どもを育成する活動

①子どもたち一人一人の学びの保障

②人権が尊重される環境づくり

③人権に関する知的理解と人権感覚の育成

人権教育の成立基
盤としての教育・
学習環境

人権学習

3 人権教育を進める 3つの視点

①子どもたち一人一人の学びの保障

子どもたちが安心して学びに向かえるようにすること

いじめ

生活困窮

見通しの持てない授業

実態に合わない教科指導



ケース会議、関係
機関等と連携、授
業の改善等の一連
の取組で子どもの
学びを保障

3 人権教育を進める 3つの視点

②人権が尊重される環境づくり

「環境づくり」

- ・ 人権課題に関するポスターや標語の掲示
- ・ 校内のバリアフリー化
- ・ 各種表示をわかりやすくする…等々

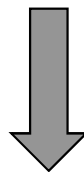
これらに加えて、教職員の姿も子どもに影響を及ぼす「教育環境」

3 人権教育を進める 3つの視点

②人権が尊重される環境づくり

【教職員の姿が子どもに影響を与える例】

忘れ物を頭ごなしに叱る教職員の姿



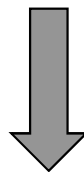
「失敗したら強く批判してもよい」という印象を子どもに与える

3 人権教育を進める 3つの視点

②人権が尊重される環境づくり

【教職員の姿が子どもに影響を与える例】

教職員同士の関係性が希薄



「みんな仲良くしよう」と子どもに訴えても響かない

3 人権教育を進める 3つの視点

②人権が尊重される環境づくり

「人権教育」 = 子どもを大切にする実践を通じて、自他を大切にする子どもを育成する活動

一人一人の子どもが一人の人間として大切にされていると実感できる環境づくりが重要

3 人権教育を進める 3つの視点

③ 人権に関する知的理解と人権感覚の育成

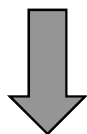


さまざまな人権課題を学ぶこと

人権に関する知的理解は大切だが、それだけが
人権教育ではない

3 人権教育を進める 3つの視点

③ 人権に関する知的理解と人権感覚の育成



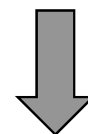
「人権に関する知識を自分の生き方につなげて理解する」

『人権教育指導資料第2集しまねがめざす人権教育』 p.12

「他人事」ではなく「自分事」

3 人権教育を進める 3 つの視点

③ 人権に関する知的理解と人権感覚の育成



「偏見等にとらわれず、様々なものの見方ができる力・感性」

『人権教育指導資料第2集 しまねがめざす人権教育』 p.4

多様な考え方ができる力・受け止められる力

3 人権教育を進める 3つの視点

③ 人権に関する知的理解と人権感覚の育成



この2つは両輪！

自他を大切にする子どもを育成するためには、知的理解と人権感覚の育成をあわせてすすめることが大切

4 おわりに

- ・ 人権教育は子どもを大切にする実践を通じて、自他を大切にする子どもを育成する活動です。
 - ・ 人権教育を進める上では
 - ①子どもたち一人一人の学びの保障
 - ②人権が尊重される環境づくり
 - ③人権に関する知的理解と人権感覚の育成
- の3つの視点から人権教育をとらえ、教育活動全体を通じて推進していくことが大切です。